

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道9号 <small>にまゆのつ</small> 仁摩・温泉津道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：島根県大田市仁摩町大国 至：島根県大田市温泉津町今浦			延長	11.8km
事業概要 一般国道9号は、京都市から下関市に至る延長約750kmの主要幹線道路である。 仁摩・温泉津道路は、一般国道9号の交通隘路区間の回避及び交通安全の確保等を目的に計画された島根県大田市仁摩町大国から大田市温泉津町今浦に至る延長11.8kmの自動車専用道路である。					
H16年度事業化		H15年度都市計画決定		H16年度用地着手	
全体事業費		約524億円		事業進捗率 48%	
		(H21年度末現在)		供用済延長 0.0km	
計画交通量 13,200～13,700台/日					
費用対効果 分析結果 (3便益)	B/C (3便益) (事業全体) 1.1 (残事業) 2.6	総費用 (残事業)/事業全体 221/548億円 事業費：181/507億円 維持管理費：40/40億円	総便益 (残事業)/事業全体 585/585億円 走行時間短縮便益：429/429億円 走行経費減少便益：114/114億円 交通事故減少便益：41/41億円	基準年 平成22年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.1（交通量+10%） B/C=2.3（交通量-10%） 事業費変動：B/C=2.4（事業費+10%） B/C=2.9（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=2.6（事業期間+20%） B/C=2.7（事業期間-20%）					
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減が見込まれる ・石見交通（大田江津線）：1日10便の路線バスの利便性向上が見込まれる ・特急停車駅である大田市駅のアクセス向上が見込まれる ・周辺ネットワークとの一体的な整備により江津市から出雲空港へのアクセス向上が見込まれる ・周辺ネットワークとの一体的な整備により大田市から浜田港へのアクセス向上が見込まれる ②物流効率化の支援 ・国際標準コンテナ通行支障トンネル7箇所（馬路、神畑、大野、湯里、清水、小浜、温泉津の各トンネル）の解消 ③国土・地域ネットワークの構築 ・周辺ネットワークとの一体的な整備により二次生活圏中心都市大田市～浜田市間の所要時間短縮が見込まれる ・周辺ネットワークとの一体的な整備により大田市温泉津町から日常活動圏中心都市大田市への所要時間短縮が見込まれる ④個性ある地域の形成 ・周辺ネットワークとの一体的な整備により石見銀山へのアクセス向上が見込まれる【年間観光客入り込み客数：石見銀山56万人（H21）】 ⑤安全で安心できる暮らしの確保 ・周辺ネットワークとの一体的な整備により江津市から三次救急医療機関島根県立中央病院までの所要時間短縮が見込まれる ⑥安全な生活環境の確保 ・死傷事故率549.6件/億台kmの仁万交差点の事故件数の減少が見込まれる ⑦災害への備え ・島根県緊急輸送道路ネットワーク計画（H9年3月策定）において第1次緊急輸送道路に位置づけられている ・緊急輸送路である国道9号が通行止めになった場合、大田市仁摩町～大田市温泉津町間の代替路を形成する ・要防災対策箇所18箇所の回避 ⑧地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる ⑨生活環境の改善・保全 ・NOx排出量の削減が見込まれる ・SPM排出量の削減が見込まれる					

関係する地方公共団体等の意見

大田市長など3市4町の首長で構成される出雲・江津間高規格道路建設促進期成同盟会など複数の団体から仁摩・温泉津道路の早期完成の要望を受けている。

島根県知事の意見：

一般国道9号仁摩・温泉津道路について、継続するとの対応方針（原案）については、異存ありません。

仁摩温泉津道路は、世界遺産石見銀山遺跡を活用した観光振興、国際標準コンテナ車通行支障区間の解消による物流効率化の支援を始め、企業誘致の促進、事故・災害時の代替道路機能の確保、救急医療活動の支援等、地域産業の活性化、地域間交流の促進のため必要不可欠な路線であり、早期完成を図って頂きたい。

また、隣接する温泉津江津間についても、事業化の前提となる都市計画決定手続きの早期実施、新規事業着手について特段の配慮をお願いする。

その他の山陰道の各区間についても、未着手区間の早期事業着手、事業中区間の事業促進を図り、2020年を目途に山陰道全線の開通を図って頂きたい。

事業評価監視委員会の意見

事業者から事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

並行する国道9号では、交通隘路区間で交通死亡事故が多発しており、また交通事故や災害による通行止めにより著しい渋滞や大幅な迂回も発生している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末までに用地買収が94%完了しており、現在、工事を推進している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

事業効果の早期発現のため、暫定2車線での早期供用を目指す。

施設の構造や工法の変更等

新工法の導入や設計の工夫によるコスト縮減【約1億円】

当面、暫定2車線で整備

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。